

2025/10/26

説教題: 「行動のために心を引き締めなさい」

聖書朗読: ペテロの手紙 第一 1 章 13 - 25 節 (新改訳聖書)

¹³ですから、あなたがたは、心を引き締め、身を慎み、イエス・キリストの現われのときあなたがたにもたらされる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。¹⁴従順な子どもとなり、以前あなたがたが無知であったときのさまざまな欲望に従わず、¹⁵あなたがたを召してくださった聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行ないにおいて聖なるものとされなさい。¹⁶それは、「わたしが聖であるから、あなたがたも、聖でなければならない。」と書いてあるからです。[レビ記 11:44-45, 18:2-4]。

¹⁷また、人をそれぞれのわざに従って公平にさばかれる方を父と呼んでいるのなら、あなたがたが地上にしばらくとどまっている間の時を、恐れかしこんで過ごしなさい。¹⁸ご承知のように、あなたがたが先祖から伝わったむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはならず、¹⁹傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。²⁰キリストは、世の始まる前から知られていましたが、この終わりの時に、あなたがたのために、現われてくださいました。²¹あなたがたは、死者の中からこのキリストをよみがえらせて彼に栄光を与えられた神を、キリストによって信じる人々です。このようにして、あなたがたの信仰と希望は神にかかっているのです。

²²あなたがたは、真理に従うことによって、たましいを清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、互いに心から熱く愛し合いなさい。²³あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく、朽ちない種からであり、生ける、いつまでも変わることはない、神のことばによるのです。

²⁴「人はみな草のようで、その栄えは、みな草の花のようだ。草はしおれ、花は散る。

²⁵しかし、主のことばは、とこしえに変わることがない。」とあるからです [イザヤ 40:6-8]。
あなたがたに宣べ伝えられた福音のことばがこれです。

皆さん、おはようございます。皆さんにまたお会いできてうれしいです。先週、私はペテロの手紙第一に関する説教シリーズを始めました。その手紙の 2 節で、三位一体の三位全員が私たちの救いに関与していることを学びました。父なる神は、私たちを選ばれたのです。それは、かつてイスラエルの民をご自身の特別な民として選ばれたのと同じような方法です。また、私たちを聖別し、この世の墮落から引き離し、神を喜ばせる生き方へと導くのは聖霊であることも学びました。そして、罪の赦しをもたらし、私たちが従い弟子となることができるのは、イエス・キリストが十字架でささげた犠牲によることも学びました。これらの基本的な考えが、ペテロが手紙で教えるすべての基盤となっています。

私たちは先週、これらの基本的な考えが、私たちが様々な試練に直面する中でも「生ける望み」を持って生きることにつながることを学びました。この生ける望みは、イエス・キリストの死者からの復活と、将来私たちが天の住まいで主と共に過ごすという約束に基づいています。先週、私はヘブル人への手紙 11 章に記された旧約の聖徒たちの証を紹介しました。彼らの生涯は、どのような試練に直面しても信仰の人生を生きる価値があることを証明しています。ヘブル 11 章の人々は、それぞれ異なる種類の試練を経験し、その結果も様々で、証のために若くして命を落とした者もいれば、困難から素晴らしい救いを経験した者もありました。しかし、どの人もあらゆる状況の中で忠実さを貫き、勝利の物語を示しています。ヘブル 11 章のこれらの物語は、私たちクリスチャンが今生きている時に、神に忠実に生きる中で直面する困難に希望を与えてくれます。

ペテロの手紙第一の前半の今日の箇所は、ペテロの手紙 第一 1 章の後半の節から始まります。「13 ですから、あなたがたは、心を引き締め、身を慎み、イエス・キリストの現われのときあなたがたにもたらされる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。」私たちは「ですから」という言葉から始めます。ですから、先ほど皆さんに確認していただいたこの書簡の最初の 12 節で概説されたすべてを踏まえて、私たちは今、13 節で次に何をすべきかについて教えられているのです。

13 節は私たちに三つのことを行うよう教えています:

- 行動のために心を引き締めること
- 身を慎むこと
- イエスが再び現れるときに私たちにもたらされる神の恵みに希望（希望を集中）をひたすら置くこと。

私たちがまず勧められていることは、「行動のために心を引き締める」ということです。聖書の他の英語訳では「心を行動に備えよ」とあります。神によって開始され、成し遂げられた救いの確固たる基盤の上に立ち、私たちが神とその御子イエスと共に永遠を過ごすことを確信している今、私たちはキリスト教生活と地上での証のために心を行動に向けるべきです。大きな挑戦に備えなさい。私の聖書では「心を行動に備えよ」という表現が使われています。ここでの考え方は、私たちは待ち構える大きな挑戦に備える必要があるということです。「備えよ」という言葉は、古代の人々が長いローブを腰のベルトや帯で締めて身を固めた時代の衣服に由来しています。時に迅速な行動が必要な場合、例えばレースや戦い、あるいは重要な肉体労働の前など、人々は自分のローブの端を取り、それをベルトや帯に差し込んで、足を自由にして速く走り、大きな挑戦に立ち向かうことができるようにしました。私たちクリスチャンも、イエスに忠実に生き、三つの大きな敵からの挑戦に立ち向かうとき、大きな挑戦が待っています。私がヤコブの手紙のシリーズ説教で少なくとも二回は言及した三つの大きな敵を覚えていますか？私たちの三つの大きな敵は、この世、肉、そして悪魔です。私たちはこの世の墮落した行いと思想を避け、神の言葉（聖書）で心を満たし、それによって思考や行動を変えられるようにしなければなりません。そして、私たちは肉の誘惑を避けなければなりません—私たちの体は多くのものを求めますが、誘惑に負けて罪深い行いに走ることを避ける必要があります。そして、悪魔は私たちが立ち向かわなければならない敵です。ヤコブの手紙 4 章 7 節とペテロの手紙第一 5 章 8-9 節は、悪魔に抵抗するよう教えています—もし信仰に堅く立ってこれを行えば、悪魔はあなたから逃げ去ります。しかし、私たちは常に勤勉でいなければなりません—世の誘惑や肉の欲望、悪魔からの気を散らすものに立ち向かう際には特に勤勉でいましょう。

だからこそ、私たちは「行動のために心を引き締める」必要があります。私たちの心は、すべき仕事に集中していなければなりません。私たちにはやるべき仕事があります。それは、神の王国の建設において自分の役割を果たすことです。コリント人への手紙 第一 12 章は、神が教会（これを「キリストの体」と呼びます）を築くために、私たち一人ひとりに霊的な賜物を与えてくださったことを教えています。1 コリント人への手紙 第一

12 章 7 節でこう言っています「しかし、みな益となるために、おののくに御霊の現われが与えられているのです。」そして、その章の残りの部分では、私たちがキリストの体の一員として自分の役割を果たすことを奨励しています。それが大きく目立つ仕事であろうと、目立たなくても同じくらい重要な仕事であろうとです。

そしてエペソ人への手紙 4 章 7 節と 11 - 12 節でこう言っています－「7 しかし、私たちはひとりひとり、キリストの賜物の量りに従って恵みを与えられました。... 11 こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。12 それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、」

教会の中で非常に目立つ役割を持つ牧師や教師のような指導者たちは、会衆の全てのクリスチャンが教職の働きを行えるように備えるために教会に与えられています。すべてのクリスチャンは奉仕者です－教師だけでなく、皆さん全員です。すべてのクリスチャンは、キリストの体である教会を建て上げる働きに関わるべきです。私たちは異なる賜物を持ち、異なる責任の領域がありますが、教会を建て上げるためには誰もが必要です。

さて、ペテロの手紙 第一 1 章 13 節に戻しましょう。「行動のために心を引き締めなさい」神があなたにしてほしいと思われる使命を果たすことに心を集中させなさい。次の勧告は次の通りです：「身を慎みなさい」身を慎みなさい。アメリカでは、このフレーズは通常、「アルコールに酔わないように」という意味で使われます。しかし、この言葉の意味はそれだけではありません。頭を明晰に保つこと、理性ある心でいること、正しく聖書に基づいて考えること、世の理屈に従わないことを意味します。

ここでの三つ目の勧告は、この節の主な目的です：「イエス・キリストの現れのとときにあなたがたにもたらされる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。」先週のメッセージで、私たちの希望は、将来の家でキリストとともにいるという確信に基づいていることを見ました。ここ 13 節でも同じことを見えています：イエスが再び来られるとき、「イエス・キリストの現れのとときにあなたがたにもたらされる恵み」に私たちは、希望をひたすら待ち望むのです。先週、5 節についてコメントしたとき、私たちの救いは、イエスが再臨してすべてを回復されるとき、時の終わりに完全に成し遂げられると述べました。私たちは新しい体を得て、罪の腐敗から完全に自由になるでしょう。これが私たちにもたらされる恵みです。その神の約束に希望をかけましょう。これを確固たる基盤として、私たちは自信を持って人生を生きることができます。

14 - 16 節に行きましょう－「14 従順な子どもとなり、以前あなたがたが無知であったときのさまざまな欲望に従わず、15 あなたがたを召してくださった聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行ないにおいて聖なるものとされなさい。16 それは、「わたしが聖であるから、あなたがたも、聖でなければならない。」と書いてあるからです。」

行動のために心を引き締め、身を慎みの恵み、神に望みを置くとき、ペテロが聴衆に最初に与える勧告は、従順な子供であり、かつて追い求めた欲望に従うことを拒むことです。このようにかつての欲望を捨てるように勧める教えは、新約聖書の多くの手紙に見られます。明らかに、これはペテロ、パウロ、ヨハネが手紙を書いた当時のキリスト教会で大きな問題であったに違いありません。なぜなら、肉の欲望は、人々がイエスを信じた後でもなお強い支配力を保ち続ける可能性があるからです。そして、これは多くの現代の教会でも依然として問題であると思います。肉の欲望は非常に強力で、人々は古い習慣から抜け出すのが難しいと感じるものです。あるキリスト教徒の中には、これらの習慣を続けることを自分自身に正当化してしまう人さえいます。私たちが「欲望」と考えるとき、通常は性的な欲望を思い浮かべますが、他の種類の欲望も存在する可能性があります。例えば、食べ物への欲望（これを私たちは貪食と呼び、イエスはこれを重大な罪だと言います）や、権力への欲望、所有物への欲望などです。

このテーマに関して私の心に留まった聖書の二つの箇所を紹介させてください。使徒パウロはエペソの教会に対して次のように語っています。エペソ人への手紙5章3節と5-7節にあります。－「3あなたがたの間では、聖徒にふさわしく、不品行も、どんな汚れも、またむさぼりも、口にすることさえいけません。... 5あなたがたがよく見て知っているとおり、不品行な者や、汚れた者や、むさぼる者——これが偶像礼拝者です。——こういう人はだれも、キリストと神との御国を相続することができません。6むなしいことばに、だまされてはいけません。こういう行ないのゆえに、神の怒りは不従順な子らに下るのです。7ですから、彼らの仲間になってはいけません。」

不道德も、汚れも、欲もありません。これらのいずれも、自らをイエス・キリストの従者と呼ぶ人々の生活の一部であるべきではありません。これらのことは「不従順の子」の生活の特徴づけるものであり、キリスト者の間にはあってはならないものです。7節を見てください：その不従順の子たちに加わってはいけません...彼らの罪深い行為に加わってはいけません。

他の聖句は、テサロニケ人への手紙 第一4章3-5節です－「3神のみこころは、あなたがたが聖くなることです。あなたがたが不品行を避け、4各自わきまえて、自分のからだを、聖く、また尊く保ち、5神を知らない異邦人のように情欲におぼれず、」

4節－各自わきまえて、自分のからだを、聖く、また尊く保ちなさい。これは、性的に不道德な行為にふけらないことを意味します。これに関連するものが、コリント人への手紙 第一6章18-20節にあります－「18不品行を避けなさい。人が犯す罪はすべて、からだの外のものです。しかし、不品行を行なう者は、自分のからだに対して罪を犯すのです。19あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。20あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現わしなさい。」

あなたの体は、あなたの中に住んでいる聖霊の宮であるため、そのような罪に溺れてはいけません。イエスは私たちの罪の罰を負い、贖いを得るために犠牲となりました。ですから、私たちクリスチャンと名乗る者は、自分の体が自分自身のものではなく、神に属していることを理解すべきです。体をもって神を栄光化しましょう。

ペテロの手紙 第一 1 章 14 - 16 節に戻しましょう。ここでペテロが聴衆に以前の欲望に従わないよう勧めるとき、このような表現や、同じ手紙の他の類似した表現の節が、聖書解説者たちにペテロの聴衆が主にユダヤ人クリスチャンではなく異邦人クリスチャンである可能性が高いことを示唆しています。ユダヤ教からの改宗者は、福音を聞く前であっても基本的に道徳的な生活を送っていた可能性が高いでしょう。多くの不道徳な行為にふけており、以前の欲望を捨てるよう勧められる必要があるのは異邦人なのです。

15 - 16 節では、私たちは神ご自身が聖なるように聖なる者であるように励まされています。前に述べたように、聖なるとは、世やその墮落から分かれることを意味します。新約聖書の学者トーマス・シュライナーの言葉を引用させてください。

聖なる者となるという命令は、神の巡礼の民 (1:1; 2:11) が異なる生き方をすることを示しています。彼らは世の悪しき欲望から自らを分け、神に喜ばれる生き方をしなければなりません。一部の学者は正しくレビ記 18 章 2~4 節を指摘しています。そこではイスラエルがエジプトやカナンの悪しき慣習から自らを区別することが求められています。聖なる者となるということは、悪から自らを分けることです。聖性への勧告は人生全体に及びます（「あなたが行うすべてのことにおいて」）。人生のどの領域も神の支配の外にはありません。...神の民は、神が聖で善であるゆえに、聖く喜ばれる生涯を送るべきです。16 節は、神の民がその生涯を神自身の模範に従って生きるべきであるという考えを繰り返しています。

では、今日の本文の次のセクションに進みましょう。ペテロの手紙 第一 1 章 17 節 -

「17 また、人をそれぞれのわざに従って公平にさばかれる方を父と呼んでいるのなら、あなたがたが地上にしばらくとどまっている間の時を、恐れかしこんで過ごしなさい。」神を父と呼び、キリストを主とすることを主張するのは重大なことであるにもかかわらず、前の段落で述べられたような墮落した欲望に満ちた生活を送るのは矛盾しています。神の子であり、イエス・キリストの従者であると主張するなら、それにふさわしい生活を送りなさい。ここでの 17 節は、神が私たちそれぞれの行いに応じて公正に裁かれることを教えています。その裁きを受ける準備はできていますか？最後に裁きに直面するため、恐れをもって行動せよというこの勧告は、若い頃、誘惑が強かったときによく私をとらえました。このことを言っている、もう一つ他の聖句は、マタイの福音書 10 章 28 節です - 「28 からだを殺しても、たましいを殺せない人たちなどを恐れてはなりません。そんなものより、たましいもからだも、ともにゲヘナで滅ぼすことのできる方を恐れなさい。」

では、読み進みましょう。ペテロの手紙 第一 1 章 17 - 19 節 - 「17 また、人をそれぞれのわざに従って公平にさばかれる方を父と呼んでいるのなら、あなたがたが地上にしばらくとどまっている間の時を、恐れかしこんで過ごしなさい。18 ご承知のように、あなたがたが先祖から伝わったむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物

にはよらず、19 傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。」

ペテロは銀や金を壊れやすいものと見なし、したがって生き物の貴重な生命の血よりも価値の低いものと考えています。旧約聖書では、犠牲の子羊は欠点がなく汚れのないものでなければならず、罪や墮落から自由であることを象徴していました。すべての人々の罪の罰を償うために、カルバリーの十字架で流されたのは、完全で汚れのない神の御子の血でした。先ほど私が読んだコリント人への手紙 第一 6 章 20 節では、「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現わしなさい。」とあります。キリスト者と名乗るなら、ここ地上での生涯を正しく生活し、天におられる父とその御子である主を敬いなさい。

聖句は、ペテロの手紙 第一 1 章 20 - 21 節に続きます – 「20 キリストは、世の始まる前から知られていましたが、この終わりの時に、あなたがたのために、現われてくださいました。せ 21 あなたがたは、死者の中からこのキリストをよみがえらせて彼に栄光を与えられた神を、キリストによって信じる人々です。このようにして、あなたがたの信仰と希望は神にかかっているのです。」

これは興味深い聖句です。キリストは、世の基が据えられる前から知られていました。神がこの地球を創造する前に、神は人類の歴史がどのように展開するかを知っており、キリストの犠牲が必要となることをあらかじめ計画されました。キリストは「世の基が据えられる前から知られていましたが、私たちのために、この最後の時代に現れた」のです。私たちが神を信じる者となるように。キリストは私たちの罪のための犠牲として死に、そして罪と死に対するご勝利を証明するために復活されました。そして、それからヘブル人への手紙 1 章 3 節の後半で言われています。「罪のきよめを成し遂げて、すぐれて高い所の全能者の右の座に着かれました。」キリストは今、栄光を受け、父なる神の右に座っています。ペテロは、私たちの信仰と希望が、この素晴らしい業を私たちのために成し遂げた神にあると言っています。

これまでペテロはその手紙の中で、私たち一人ひとりが希望と信仰、そして聖なる生活をもってこの地上でどのように生きるべきかを語ってきました。次の段落では、彼は教会における私たちの共同生活に目を向けます。ペテロの手紙 第一 1 章 22 - 23 節 – 「22 あなたがたは、真理に従うことによって、たましいを清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、互いに心から熱く愛し合いなさい。23 あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく、朽ちない種からであり、生ける、いつまでも変わることはない、神のことばによるのです。」

私は、21 節の終わりでペテロが信仰と希望について語っていることに気付きます。22 節では、今度は愛について語っています。それは有名な「愛の章」、コリント人への手紙 第一 13 章の最後の節を思い出させます。その章では、三つの貴重なものについて語られています。コリント人への手紙 第一 13 章 13 節 – 「13 こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。」信仰と希望は貴重です。ペテロは、これらがキリスト者としての生活の基盤にどれほど重要であることを私た

ちに教えてきました。さて、次はコリント人への手紙 第一に挙げられた三つの貴重な宝の中で最も偉大なもの、愛について考えます。

私は別の重要な箇所を思い出します。ヨハネの福音書 13 章 34-35 節で、イエスは十字架にかけられる直前に弟子たちに次のように語られています。－「34 あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。35 もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」

これは、私たちが本当にイエス・キリストの弟子であることを、これらの扉の外の世界が知るための決定的な特徴です。それは、キリスト者たちが互いに愛し合っているかどうかです。三位一体の三つの存在は、世界が始まる前から互いに愛し合っています。神は人間を創造し、神との関係を持たせ、神を愛し、互いに愛するようにされたのです。神は世界を愛されたので、ご自身の御子を遣わし、私たちが創造主との関係を回復できるようにしてくださいました。ヨハネの福音書 3 章 16 節 - 「16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

以前、私はあなたと私のお気に入りの聖句の一つであるテモテへの手紙 第一 1 章 5 節を共有したことがあります－「5 この命令は、きよい心と正しい良心と偽りのない信仰とから出て来る愛を、目標としています。」しばしば、聖書研究を教えたり、説教をしたりした後で、私はこの聖句とその重要な教訓を思い出します。私たちの教える目的は、人々の聖書の知識を増やしたり、教義の理解を完璧にしたりすることではありません。目的は、彼らの心と行動の変容です。目的は、彼らが愛を持つこと、すなわち、**純粋な心、良心から、そして真実の信仰**から生まれる互いへの愛を持つことにあります。

これは、私が昨年の神学校のコースのために行ったプロジェクトを思い出させます。昨年、私は大阪インターナショナルチャーチの強みと弱みについての意見を教会の皆さんに尋ねるアンケートを配布したことを覚えているかもしれません。多くの人々は、私たちの教会の強みのひとつは居心地の良い場所であるということだと答えました。しかし、多くの人もまた、居心地の良い場所であることは改善すべき点のひとつであると示していました。これは矛盾しているように見えました。私の教授は、アンケートの結果は、**OIC** が居心地の良い場所であることにうまく努めていると感じる人もいれば、そうではないと感じる人もいるものの、居心地の良さは教会メンバーにとって非常に価値があることを示していると教えてくれました。私たちがこれからも新しい訪問者を歓迎し、**OIC** で交わるすべての人々に愛を示し続けられるよう祈ります。

ペテロの手紙 第一 1 章 22 節をもう一度見ましょう－「22 あなたがたは、真理に従うことによって、たましいを清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、互いに心から熱く愛し合いなさい。」この章の中で、ペテロは何度も私たちに従順の重要性につ

いて語っています...神の真理への従順、それは私たちが古い罪深い生活を後にし、今やイエス・キリストとその教えに従っていることを意味します。これによって私たちの魂は清められ、兄弟姉妹を**心からの愛**で愛することができるのです。さあ、それを行動に移し、心から互いに**熱心に愛し合**いましょう。

ペテロは 23 節で続けます - 「…23 あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく、朽ちない種からであり、生ける、いつまでも変わることのない、神のことばによるのです。」 **私たちは肉の種からではなく、神の生きていて永遠に続く言葉によって生まれ変わりました。**神の生きた言葉、神の永遠の言葉。この聖書、神の言葉が多くの人々の人生を変えたと証言する人は多く、その歴史は福音のメッセージが数え切れないほどの個人や社会全体を変えてきたことを示しています。

ペテロは、預言者イザヤの書から引用し続けます。24 - 25 節 -

「24 「人はみな草のようで、その栄えは、みな草の花のようだ。草はしおれ、花は散る。

25 しかし、主のことばは、とこしえに変わることがない。」とあるからです。あなたがたに宣べ伝えられた福音のことばがこれです。」

旧約聖書の預言者や新約聖書の使徒たちによって説かれたこの永遠に続く神の言葉は、私たちに永遠の命をもたらすメッセージです。皆さんがこのメッセージを受け入れ、新たに生まれ変わることを私は祈っています。まだイエスに自分の人生を捧げ、イエスの救いの申し出を受け入れていない方は、今日の礼拝の後、牧師や私、または私たちの役員の誰か、あるいは、この講堂の後方で「リフト／祈り」のサインの横に立っている人に話しかけてください。私たちはイエス・キリストの救いの道をあなたに示すことができます。

今日の私のメッセージのタイトルは、ペテロの手紙 第一 1 章 13 節の言葉に由来します。「行動のために心を引き締めなさい」父と子と聖霊によって始められ、完成された私たちの救いの確かな土台に立ち、神の約束にある「生ける望み」に力を得て、私たちは今、キリスト者としての責任を実践するために心を強めます。それでは、今日のメッセージの教訓を振り返ってみましょう：

- キリスト教徒の生活という大きな挑戦に備えなければなりません。
- キリストの体である教会を築く手伝いをするうえで、自分の役割を積極的に果たしましょう。
- 善良な判断を持ち、正しく聖書に基づいた考えを持ちましょう。
- 神の恵みと永遠の命の約束に希望を完全に置きましょう。
- 従順な子どもであり、かつて従った古い欲望には従わないようにしましょう。
- 聖なる者でありましょう：神の巡礼の民は、世の中とは異なる生き方をします。
- キリストは御自身の血で私たちを贖われました—私たちは彼のものです。
- 心から互いに熱心に愛し合いましょう。
- 神の言葉は永遠に残ります。その揺るぎない土台に立ちましょう。